

## 令和 5 年度 大阪府感染症発生動向調査委員会

■日時：令和 5 年 9 月 13 日（水）午後 2 時から午後 4 時まで

■場所：大阪健康安全基盤研究所 北館 3 階 OIPH ホール

■出席者（委員）：

氏 名	所 属
磯ノ上 正明	大阪皮膚科医会
大原 俊剛	大阪府保健所長会
塩見 正司	大阪府医師会
富吉 泰夫	大阪小児科医会
中山 浩二	大阪市保健所
早川 潤	大阪産婦人科医会
東野 博彦	大阪府医師会
宮浦 徹	大阪府眼科医会
宮川 松剛	大阪府医師会
三宅 眞実	大阪公立大学
安井 良則	大阪府済生会中津病院

（五十音順、敬称略）

■欠席者（委員）

大平 真司（大阪府医師会）、亀岡 博（大阪泌尿器科臨床医会）

■議事「大阪府感染症発生動向調査事業実施要綱 及び 大阪府感染症発生動向調査委員会設置要綱の改正について」

大阪府感染症発生動向調査事業実施要綱と、大阪府感染症発生動向調査委員会設置要綱の改正箇所の説明。

■議事「2022 年感染症発生動向調査事業の報告」

2022 年感染症発生動向調査事業報告書（暫定版）の内容報告。

■議事「2022 年の主な感染症」

2022 年 1 月～12 月の大阪府全域における感染症発生動向について資料に沿って報告。

### 1. 感染症胃腸炎

第 3 週の定点あたり報告数が 7.5 と、最も高くなった。

全国では、特にサポウイルスが多く検出された。

## 2. RS ウイルス感染症

第 29 週でピークに到達し、定点あたり報告数が 7.30 と、過去最高の値となった。2019 年までは 35 週以降にピークを迎えていたが、21 年に続き、早い時期にピークが形成されている。

## 3. 手足口病

第 36 週でピークに到達したが、定点あたり報告数は 2021 年に比較して低かった。15 年、17 年、19 年の流行年には第 20～30 週にピークが形成されたが、21 年と 22 年は第 30 週以降にピークが形成された。

## 4. インフルエンザ

20/21、21/22 シーズンは流行が無かったが、22/23 シーズンは第 51 週に 1.00 を上回った。

22/23 シーズンの大阪府の定点あたり報告数の最高値は、2023 年第 5 週の 30.28。

### ■議事 意見交換会「テーマ：梅毒」

大阪府における 2022 年の梅毒届出数は 1,806 名であり、これは 68 年ぶりの大流行であった。

大阪府内の梅毒届出数は、男性は 13 年、女性は 15 年に急増し、届出数の合計が 1,000 名を突破（1,188 名）した 18 年以降は減少傾向を示していたが、22 年に再び急増した。

22 年の届出数 1,806 名という報告数は、感染症法施行以降の最多人数である。

23 年は、昨年を上回るペースで届出されており、危機的状況が続いている。

性別・感染経路別の届け出数では、女性の異性間性的接触が最多で、妊娠可能な年齢層（特に 20 歳代）の届出が急増しており、実際に妊婦の梅毒患者例も毎年 40 例前後発生している。母子感染を防ぐため、妊娠女性やそのパートナーへの更なる注意喚起が急務。